

(様式第1号)

平成27年度第1回 芦屋市立図書館協議会 会議録

日 時	平成27年8月11日(火) 14時～15時15分
場 所	芦屋市立図書館本館2階集会室
出席者	委員長 笹倉 剛 委員 北里佐和子 委員 熊本 潤子 委員 布谷 忠司 委員 松本 淳子 委員 松本 素子  事務局 福岡教育長, 中村社会教育部長, 丸尾館長, 越智管理 係主席係長, 末広奉仕係主席係長, 木田整理係長, 森位
欠席者	枝元 益祐, 水谷 孝子
会議の公開	■ 公開
傍聴者数	0人

1 会議次第

- ① 委員委嘱式
- ② 平成26年度事業報告
- ③ その他

2 提出資料

平成27年度第1回芦屋市立図書館協議会 資料

3 審議経過

(協議会開会)

(丸尾館長) ただいまから, 図書館協議会を開会します。委員長が決定するまで, 私が進行をさせていただきます。それでは, 委員委嘱式を行います。

(福岡教育長から各委員に委嘱状を手渡し。)

(各委員あいさつ)

(福岡教育長あいさつ)

(丸尾館長)

では最初に、委員長と委員長代理の選任を決めたいと思います。まず、委員長についてはいかがでしょうか。

(「笹倉委員にお願いします。」の声起こる。)

(丸尾館長) それでは、笹倉委員を委員長にすることにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声起こる。)

(丸尾館長) それでは、委員長が決まりましたので、これより協議会の進行は笹倉委員長にお願いいたします。

(笹倉委員長) よろしくお願ひいたします。それでは次に、委員長代理を決めたいと存じます。私が指名することにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声起こる。)

(委員長) ご異議なしと認めます。それでは委員長代理は松本淳子委員にお願いしたいと思います。松本淳子委員、ごあいさつをお願いします。

(松本淳子委員長代理あいさつ)

(委員長) 次に、この協議会の公開について諮る必要があります。今日の会議を「芦屋市情報公開条例第19条」に基づき公開としますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声起こる。)

(笹倉委員長) それでは、この会は公開といたします。議事録は芦屋市のホームページに公開されます。次に、平成26年度事業報告について議題といたします。事務局から、ご説明をお願いします。

(丸尾館長) それでは、平成26年度図書館の事業報告を説明いたします。お配りしている資料ですが、平成27年度第1回図書館協議会資料をご覧ください。

1 ページ、1 図書館協議会の開催につきましては、全体協議会は、計2回行っています。

2 利用状況 (1) 図書個人利用状況については、図書館本館、打出分室、大原分室の3館で運営しており、左の列から本館、打出分室、大原分室、その合計がその右の平成26年度の欄に入っており、その横には平成25年度の実績となっています。

利用人数は202,641人で、平成25年度と比べて5,679人減少しています。

その下の貸出冊数については760,050冊で、平成25年度と比べて16,702冊減少しています。

その下の市民一人当たり貸出冊数については8.1冊で、平成25年度と比べて0.1冊減少しています。

(2)の点字録音図書利用状況ですが、延べ人数309人となっています。貸出冊数は427冊です。

(3)の図書館の登録者数は、男女比でわかれています。いずれの図書館施設でも女性の利用者が多い傾向にあります。3館合計で21,709人、登録率は23%となっています。

2 ページをご覧ください。図書受入状況につきましては、平成26年度の受入冊数は15,607冊、除籍冊数は14,228冊です。蔵書冊数は前年度比で1,379冊増となっています。(2)録音図書の蔵書数は723本となっています。(3)点字図書蔵書冊数は、1,132冊となっています。

当館の録音図書や点字図書の作成は、ボランティア団体の「あし笛」、「点字友の会」の皆さんのご協力をいただいています。(4)雑誌受入状況ですが、計220誌を受け入れています。その下はタイトル数となっています。人気のある雑誌は本館以外の分室の利用がありますので、同じタイトルの雑誌を複数受け入れています。(5)新聞受入状況は、計22紙を受け入れており、タイトル数は14です。

3 ページの4の蔵書構成ですが、平成26年度末の蔵書冊数は379,371冊です。蔵書区分の構成比は、昨年度に比べて大きな変化はありませんが、文学については微増しています。蔵書数は、昨年度に比べて1,379冊増えています。5の本の希望図書ですが、こちらは貸出中や未所蔵資料についての予約処理件数となります。26年度末で139,463冊でした。そのうち、インターネット予約は、105,444件で、全体の約75.6%

です。25年度が136,324冊で、インターネット予約が全体の74%でしたので、貸出冊数等は減少していますが、予約処理件数、インターネットの予約処理件数が毎年増加している状況です。

次の4ページの6の相互協力ですが、相互協力とは利用者から未所蔵分のリクエストがあり、その本が絶版等で購入できない場合、他の図書館から本を借りて本市の利用者へ提供する。逆に、他市から同様の依頼があった場合も、こちらから他市の図書館に資料を貸出すという、図書館同士協力して利用者に資料提供するサービスです。本市が他館より借りた冊数が、962冊、本市から他の図書館に貸出した冊数が1,518冊です。当館は、例年貸出冊数の方が多い傾向にあります。7のコピーサービスについては、こちらに出ている数字のとおりです。8の集会行事について説明させていただきます。まず、「子どもおはなしの会」と「絵本の会」ですが、毎週土曜日に開催している行事です。「絵本の会」は、3歳以上の会と5歳以上の会に分けて行っています。「おはなしの会」も、小学1年生以上の会と小学3年生以上の会と、年齢別に分けて開催しています。やはり、年齢によって楽しめる内容が異なってきますので、プログラムを考慮していきたいということで、2回に分けて行っています。「打出分室子どもおはなしの会」は、打出教育文化センター内で月1回開催しています。こちらは親子参加が可能なものです。また、「親子で楽しむお話の会」「親子で楽しむ絵本の会」は、本館の「おはなしの会」「絵本の会」は通常保護者の方が参加できないので、「子ども読書の日」と読書週間の機会に親子で楽しめるように開催しています。「小学生の本の部屋」については、子どもと本を結びつけることを目的に、ブックトークなどを中心に行っておりまして、昨年度は23名の参加がありました。

以上の行事につきましては、ボランティアグループの「ムギの会」「グループめるへん」の皆さんと、図書館職員が協力して運営しています。

「折り紙教室」「人形劇の会」は、夏休みに子ども向け行事として行っているものです。「読書講演会」は、昨年度は『阪神間少年・村上春樹の「図書館をめぐる冒険」』というテーマで開催しまして、53名の参加がありました。なお、昨年度は、阪神淡路大震災から20周年ということで、震災資料展を開催し、延207名の参加がありました。

9の視聴覚教育ライブラリーにつきましては、登録団体が17団体、利用人数は延224人となっています。

5ページ、10の駐車場については、昨年度は約60,807台の利用があり、3,667,000円の収入となっています。

図書館運営の報告につきましては、以上になります。

(笹倉委員長) ありがとうございます。今の事務局報告について、何かご質

問ありませんか。

(中村社会教育部長)

ちなみに、基準となる人口ですが、今年度ベースで94,335人です。

(笹倉委員長) 登録率は、例年こういう数字でしょうか。

(丸尾館長) 例年、平行線に近い状態で、大きく変わっていません。

(笹倉委員長) 本市は23%と、都市部ではよく頑張られておられるのではないのでしょうか。

(布谷委員) 登録者数は、カードを作った館ということでいいのでしょうか。住所のことではないですね。

(丸尾館長) カードをどこの図書館施設で作られたかというデータになります。

(布谷委員) 再発行した場合は、場所はどこになりますか。

(丸尾館長) 最初に作られたものは無効になりますので、新たに作られたカードの情報になります。

(丸尾館長) 前年度の事業といたしまして、平成26年4月から新たに市役所地下駐輪場に返却ポストを設置しました。

(熊本委員) 利用人数が減少していますが、例年減ってきているのですか。それとも今回だけでしょうか。

(丸尾館長) 貸出冊数と利用人数については、ここ数年少しずつ下がっている状況です。インターネットによる利用がものすごい勢いで伸びてきた年とそれが重なっています。インターネット予約開始以前は、来館して予約をされていたし、例えば、来館いただいて本棚で本を選んで借りるということをしていただいていたと思いますが、現在は、目的の本を確保したらそれだけを借りてそのまま帰られる利用者が増えているということも考えられます。貸出冊数と利用人数が減っているのに、予約件数が上がっていることから、そのように考えています。

(熊本委員) 利用人数というのは、貸出の利用人数ですか。

(丸尾館長) そうです。図書館に来られて、本を利用された人の数としてカウントしていますので、来館のみの方はこれに含まれません。図書館施設を利用して読書をしたり、行事に参加された方を含めると、図書館を利用された方はもっと多くなります。

(熊本委員) 来館人数は増えているかなと少し思いましたが、利用人数が減っていたものですから。

(丸尾館長) 図書館を訪れた方の人数もカウントできればいいのですが。他の図書館では、BDS(盗難防止ゲート)等で可能であると聞いているのですが、当館ではそのような設備がないものですから、館内利用のみの利用人数は把握できていません。

(布谷委員) 蔵書点検は、以前は図書館一斉点検でしたが、今はシフトしていただいていますね。その事による効果はありますか。

(丸尾館長) 図書館としましては、少しでも休館日を減らし、利用していただく機会を増やすようにしたいと思っておりますが、数字には反映されていない状況です。

(布谷委員) せっかく、苦勞してもらっているのに。

(丸尾館長) 開館日数自体は増えているのですが。

(笹倉委員長) 特別整理日数は、何日くらいですか。

(丸尾館長) 特別整理期間ですが、本館については10日間です。打出分室は2日間、大原分室は3日間です。

(笹倉委員長) 先ほどの貸出が減っているという分析はなかなか難しいと思います。資料費等の推移は、ここ5年くらいはどうですか。

(丸尾館長) 微増です。金額は減らさないようにしています。

(笹倉委員長) ほとんどの市町の資料費が減ってきている状況で、維持されているというのはすばらしいですね。

(布谷委員) その資料費ですが、公民館予算と本館予算があると思いますが、この統計の中では本館予算のみと考えていいですか。

(丸尾館長) ここに、打出分室と大原分室しか出ていないのは、図書館管理下の図書館施設であるためです。市内には、公民館図書室と上宮川文化センター図書室がありますが、こちらは協力館という位置付けになります。図書費もそれぞれで持っていますので、ここの統計には反映されていません。

(布谷委員) ワンタイトルで、ダブルで持たれている。そういう時の貸出統計として、果たしてこれでいいものかどうか。市民に対しての生理欲求の満足度からいうと乖離しているのではないかという認識です。協力館の利用が反映されたら、冊数としてももう少し伸びるのではないのでしょうか。この数字は少ないと思います。端末で貸出をしている以上、統計としては取れるので、できれば内数とかで把握していただいた方が、よくわかるのではないかと思います。

なぜかといいますと、他館の冊数も出るということであれば、それも入れて然るべきで、図書館予算だけの貸出冊数だけでなく、他館の本も図書館の貸出しとして入れている訳ですから、そうすると芦屋市の市民として公民館の予算からも本を借りることになるので、そういうのも出していただければと思います。

(笹倉委員長) リクエストとして、他館から借りるよりも貸出する方が多いとのことでしたが、リクエストについてはいかがでしょうか。

(丸尾館長) リクエストにつきましては、基本的に、出版後2年以内で購入可

能なものであれば、資料収集方針に基づき購入して提供し、内容的に古いものなどは、他館から借りて提供するという判断になります。リクエストについては、処理件数から見てもこの規模の図書館としては、お応えできているのではないかと考えています。

(布谷委員) 相互協力うち、阪神間の他館と県立図書館の内訳はどうなっていますか。

(丸尾館長) 平成25年度の統計になりますが、相互間貸借の状況は、県立図書館からは230冊借りています。阪神間の7市1町からは、毎週1回、各図書館に物流の車が巡回しています。こちらから借入れていますのは、尼崎市204件、伊丹市45件、川西市114件、三田市67件、宝塚市175件、西宮市160件、猪名川町24件です。7市1町以外の市町の図書館からは77件で、計1,096件です。貸出していますのは、尼崎市247件、伊丹市27件、川西市208件、三田市198件、宝塚市157件、西宮市227件、猪名川町71件です。7市1町以外のその他からは466件で、計1,601件です。

(布谷委員) 25年度から26年度は、相互協力は減っていますか。

(丸尾館長) 少し減っています。図書館間で協力し合って利用者の方々に本を届けることは、小さい図書館にとっても重要なことであるので、他館への貸出も大切なことだと思っています。

(笹倉委員長) 関連して何かございますか。

(丸尾館長) 補足ですが、資料の4ページで集会行事として市立図書館の主催事業を説明させていただきましたが、この他にも「芦屋市立図書館友の会」というボランティアグループにご協力いただいて、事業を開催しております。昨年度は、4月12日、8月16日、11月15日に、ライブラリーコンサートを開催しました。図書館入口のエントランスホールで、ピアノ演奏やアカペラライブなどを開催し、また、絵画、書、人形、版画等の展示も定期的にしてくださっています。市民の方が様々な芸術に触れるいい機会だと思っています。

(笹倉委員長) 子どもの読書に関してすごく充実しているのですが、これほど行っている図書館は少ないと思っています。図書館ボランティアは、どういった内容で図書館を支えられているのでしょうか。市民のパワーを活かす意味で教えていただけますか。

(丸尾館長) 「芦屋点字友の会」の皆さんには、「広報あしや」や図書作成作業で全面的に協力いただいています。「あし笛」の皆さんには、録音図書の作成や、対面朗読といって利用者が希望する図書の朗読や、障害をお持ちで本に親しむ機会を奪われている方に対するサービスに関してサポート

をしていただいています。

「ムギの会」の皆さんには、子どもと本を結びつける事業として、こどもおはなしの会、絵本の会などご協力をいただいています。

打出分室では、「グループめるへん」というボランティアグループにご協力をいただいています。「こどもの本の研究会」「おはなしの研究会」は、図書館で行っている子どもの行事にボランティア等で協力していただく際の勉強会という位置付けになっています。図書館活動に興味を持たれた方については、まず研究会に参加していただいて、職員もいっしょに研鑽しながらご協力いただいています。グループに入らないで個人でボランティア活動していただくことも可能です。そのような研鑽の場として、毎月研究会として開催しています。

「芦屋市立図書館友の会」の皆さんは、イベントがメインになります。図書館では小学生対象の行事は多いですが、乳幼児や中高生に対するサービスなど、図書館として弱い部分を年代別でサポートしていただいています。

(笹倉委員長) 芦屋市立図書館のホームページは、専門的でなかなかすばらしいですね。あれは、どなたが作られたのでしょうか。ホームページは民間に委託して作成されたのですか。

(丸尾館長) 当館のホームページの開設につきましては、民間に依頼する余裕がなかったものですから、当時の図書館長が自ら作成しました。

(笹倉委員長) 芦屋市立図書館のホームページは、図書館利用者に対してやさしいホームページで、見やすくいろいろな情報が盛りだくさんであることに、びっくりしました。

(丸尾館長) ありがとうございます。

(北里委員) さきほど、「芦屋市立図書館友の会」のお話がありましたが、私は家が近くなので、コンサートに寄せていただくことがあります。コンサートの開催は閉館後になるので、午後7時～8時くらいになりますが、意外にも小さい子どもさんを連れられた方がいらっしやいまして、ちゃんと託児の部屋も用意されるなどのサポートを会員の方々がとてもきめ細かくしてくださり、いつも感心しています。ただ、お礼を言う場がないと常々思っていて、「芦屋市立図書館友の会」の方にお伝えいただきたいと思えます。

(丸尾館長) お伝えしておきます。

(笹倉委員長) そのコンサートの時に、関連図書の貸出に繋げるような工夫はされていますか。

(丸尾館長) コンサートは、閉館後、エントランスホールで行っていますので、

開架室に入れられない状態です。図書館で開催していますので、そのあたりことも考えていけたらと思います。

(笹倉委員長) 小豆島の土庄町の図書館を造るときに相談を受けて、中央にグランドピアノを置いていて、月に1回コンサートをしています。その作曲家の関連の本を置いて貸出しに繋げたりされています。

(笹倉委員長) 映画会もされているのですね。

(丸尾館長) 月2回開催しています。

(笹倉委員長) 広報については、どうされていますか。

(丸尾館長) 市の広報紙、図書館のホームページや図書館報などで広報しています。よく問合せもいただき、リピーターになられる方もいらっしゃいますので、参加人数は一定しています。

(笹倉委員長) 学校と図書館との連携はどういったことをされているのでしょうか。

(丸尾館長) 学校との連携につきましては、従来から図書の団体貸出を行っています。昨年度、図書館から337冊貸出しています。あと団体利用として、クラスや学年単位で施設を利用してもらっています。毎年、学校図書室の司書・司書教諭と図書館職員が同じ場で情報や意見交換を行う場を設け、図書館サービスに繋げていけるよう心がけています。あとは、先生方の要望にお応えできるように、図書館職員が相談にのったりもしています。

(松本淳子委員) 学校では、それぞれの教科の中で、本を取り入れていることが多くなっています。例えば、戦争関係の本など、こちらの図書館の方がたくさんあるということで、本の題名がわかればFAXで送っておけば、いつまでに用意しておきますという連絡をいただいて利用させていただいています。職員の方とやりとりをして、借りることもありますし、学校の図書室で足りない部分を助けてもらっています。

(笹倉委員長) ちなみに、貸出のメール便はどうなっていますか。

(丸尾館長) 市内の学校とそのような連絡便等が確立されていたらいいのですが、まだ、そこまでに至っていません。学校の先生方が取りに来られているのが現状です。

(松本淳子委員) 学校の図書室と図書館のシステムが一緒であればすごく使いやすいと思います。学校と図書館のシステムが違うので、結局、図書館の本の検索する時は、インターネットから検索しないといけないので、そこが残念です。

(丸尾館長) 1回に利用される冊数が、25年度より26年度の方が多くなっており、現場の先生方が大変な思いをされていると思います。

(笹倉委員長) 集団読書用の図書などは、どうされていますか。西宮市は、各

学年で40人の、一学年のタイトルは40冊以上持っています。そういうのは学校で買われるのでしょうか、それとも図書館で買われるのでしょうか。

(松本淳子委員) 学校で持っています。30～40冊、種類によっては持っています。ただ、種類によるという限定的なものなので、足りないときは図書館を利用していますし、他の学校も持っていますので、声をかけて行くこともあります。

(笹倉委員長) 他に質問等はないでしょうか。ないようでしたら、次の次第の3の「その他」で、事務局から何かありますか。

(丸尾館長) 報告させていただいた事業以外のことで、ご質問やご意見をいただければと思います。

(布谷委員) この7月31日で、谷崎潤一郎の没後50年が経つのですが、なぜイベントがなかったのでしょうか。美術博物館ではありましたが。

(丸尾館長) 図書館では、大きなイベントが出来なかった代わりに、本の展示をさせていただきました。「谷崎潤一郎とその周辺」というテーマで、谷崎潤一郎の著作以外にも関連資料、ゆかりのある人物の資料等を集めて展示をしました。谷崎潤一郎記念館とも連携させてもらって、お知らせのチラシなども設置しました。

(布谷委員) 谷崎潤一郎記念館も指定管理者になっていますので、なかなか協働できないということは十分理解できるのですが、非常に残念です。できれば、梅雨の時期にやっていただいていたら、ちょうど7月末あたりに思い出してもらっていたのではないかと思います。

(丸尾館長) 図書館としましても、谷崎潤一郎については、全集を新規購入するなど、ゆかりのある作家でもありますので、若い方にも興味を持っていただいたり、手に取っていただいたりする機会を増やしていければと考えています。

(布谷委員) せっかく、松子夫人が「芦屋に記念館を」を言われたということもあります。余談ですが、来週16日に、NHKのBS放送「妖しい文学館」で谷崎潤一郎の事が取り上げられるようですが、予告を見るたびに思い出すものですから、あえて言わせていただきました。

(中村部長) 10月中旬頃になりますが、NHKの「歴史ヒストリア」という番組の中で、富田碎花記念館と谷崎潤一郎記念館も資料を貸出していることから、その外観と芦屋の名前が出るということを聞いております。

(笹倉委員長) 皆様のご協力を得て、無事終えることができました。それでは、これで閉会いたします。ありがとうございました。

以上